3　小学校現場からの提案・どうすれば「学力低下」を防げるか

⑶　校内研修と評価の在り方を問う

熊本市立出水南小学校　教諭　村上浩一

「学力低下」について、日頃から考えていることをここに2点書いていくことにする。

1、校内研修の在り方

学校は言うまでもなく、学力をつけるところである。それなのに、学力が低下しているということであれば、何かがおかしいからである。その第一は教師の力量低下ではないか、と疑ってみる必要がある。その教師の力量をアップするために校内研修という仕組みがある。ここでは、研究より研修に重きをおくべきである。この2つ、広辞苑によると、こうある。

■研究・・「よく調べ考えて真理をきわめること。」

■研修・・「学問や技芸などをみがきおさめること。」

「真理を究める」研究になると時間がかかるが、「技芸を磨く」研修だと明日の授業に役立てることができる。スローガン的な目標等々を考える研究会から即実践につながる研修会への脱皮が鍵を握っていると考える。そのための提案をしていく。

提案1：全教師、1年に2回以上の研究（研修）授業を公開する。

教職員総数約40人規模の学校に合計3校11年間勤めているが、在任中

に一度も授業をみたことのない教師が半数以上に及ぶ。これでは、自分の授業の腕は磨けないだろう。磨けないどころか、進歩がない分、悪くなる一方であろう。授業を見るのとするのとでは、大きな違いがある。時代は変化しているのに、教師の実力が変化しないのでは、学力低下も当然であろう。□

□□□

昨年1年間実践してみた。それは、国語科と算数科のみであるが、効果から言うと、こうである。なお、従来の通知表はもちろん存在しており、クラス独自に実践したものである。

1．漢字や計算等の基礎学力において、一人一人の学力を意識するようになり、確かに引き上げることができた。
2．単元毎の評価を保護者に知らせるということは、緊張感を生み出し、指導方法を再考するようになった。

私自身はこのような観を強くもったが、保護者はどうだったろうか。次のような意見が寄せられた。

①子どもの学力がどうなのかがはっきりとわかりました。苦手なところ等、先生に最後まで指導して頂き、本当に安心し、心強く思え、ありがとうございました。視写や音読、計算等々に、あと何秒、あと何分と楽しんでいました。子どもが楽しんで勉強でき、本当に有り難いと思っております。

②子どもの毎日の授業を見るわけではないので、どれくらい理解しているのか、何が足りないのかがわかりやすいので良いことだと思いました。家庭での勉強も何に力を入れたらいいのかがわかります。

③項目別になっているので、できるところとできないところが明確にわかるので、良かったと思うし、今後の学習の参考になります。その一方で、できないところを、どのような家庭学習をさせていけばいいかのコメントがあると助かります。

④1枚の内に記載してあるので、成長がわかりやすい。項目・回数が増えると、着実な伸び、あるいは一時的な停滞等がわかるのではないでしょうか。そのためには先生一人で作ることは限界がありますので、児童本人が記載できるようにして、本人の励みにするということも一考されてはいかがでしょうか。

教育は、教師対児童・生徒のみでなく、第三者の目として保護者や地域を含めていくことで、客観的な教育実践や教育評価が可能になっていくと思われる。もちろん、学力テスト等の客観的なテストも大切なことは言うまでもない。いずれにせよ、評価の仕方に改善を加えていくことで、学力低下は防げるのではないだろうか。

以上、校内研修と評価の在り方の2点について、自分の考えをまとめてみた。